

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075400285		
法人名	社会福祉法人 鞍直会		
事業所名	グループホーム やすらぎ園		
所在地	福岡県鞍手郡鞍手町大字木月1599番地 (電話) 0949-42-6883		
評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年5月16日	評価確定日	平成19年7月5日

【情報提供票より】(平成19年5月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年	4月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	8人, 非常勤 6人, 常勤換算 5.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(平成19年5月16日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	11名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.3歳	最低	69歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鞍手町立病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠くに福智山系が見える広大な敷地内に位置する事業所は、特別養護老人ホーム、デイサービス、在宅介護支援センターなどに併設された事業所である。近くに民家が少ないため、普段は地域との交流が少ないが、法人としての行事に地域の方や子ども会・老人会が参加することによって、地域との交流がある。法人の機能を活かし、様々な企画が生まれ、職員も研修しながら介護の質の向上を目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で要改善や不十分な点について全職員で協議し、改善計画を立て、取り組んでいる。研修や意見箱の設置、人権学習やプライバシーに関する規定の整備等、多くの課題の改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価を踏まえ、今回の自己評価は職員会議で職員の意見を聞きながら取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、外部評価や介護の内容等を報告し、活発な意見交換がある。会議の内容や提案は職員会議で検討・対応し、サービス向上に活かしている。詳細な会議記録がある。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>家族会はないが、月1回の家族の訪問時に、必ず意見等を聴き、それらを運営に反映している。また、意見箱を玄関に設置している。重要事項説明書に相談窓口の担当者名及び外部機関の苦情相談窓口を明記している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、回覧板等で地域情報を把握している。利用者は、法人が場所を提供し、公民館や子ども会と連携して企画する盆踊り等に参加している。また地域ボランティアの訪問もあり、地域との交流がある。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【 I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念がある。分かりやすく、職員にも浸透しているが、事業所独自の理念はない。	○	全職員で協議等を行い、地域密着型サービスの視点を加えた事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月2回の職員会議で、母体法人の理念について管理者からの全職員へ確認し、職員に浸透している。	○	地域密着型サービスの視点を加えた事業所独自の理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板等で地域情報を把握している。利用者は、法人が場所を提供し、公民館や子ども会と連携して企画する盆踊り等に参加している。また地域ボランティアの訪問もあり、地域との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員会議で職員の意見を聞きながら取り組んでいる。前回の外部評価で要改善や不十分な点について全職員で協議し、改善計画を立て、取り組んでいる。研修や意見箱の設置、人権学習やプライバシーに関する規定の整備等、多くの課題の改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、外部評価や介護の内容等を報告し、活発な意見交換がある。会議の内容や提案は職員会議で検討・対応し、サービス向上に活かしている。詳細な会議記録がある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の受託事業である介護教室を、年1回事業所で開催し、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族への説明は行っていないが、玄関窓口に制度に関するパンフレットを置き、家族に郵送している。職員に対しては、勉強会で説明しているが、全職員に浸透してはいない。	○	継続的に制度に関する勉強会等を開催し、全職員に浸透するよう取り組んでほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、便りを発行し、家族に郵送している。最低月1回は家族が訪問する機会を作り、その際にも口頭での利用者の近況報告を行っている。また、ホームページ(ブログ)を開設しており、情報発信を積極的に行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、月1回の家族の訪問時に、必ず意見等を聴き、それらを運営に反映している。また、意見箱を玄関に設置している。重要事項説明書に相談窓口の担当者名及び外部機関の苦情相談窓口を明記している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員同士の懇親会を実施し、管理者が職員の面接機会を持つ等して、異動や離職を必要最小限に抑えて、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢等で採用を理由に採用対象から排除しないようにしている。職員の資格取得や免許取得に配慮し、支援をしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者に対する人権やプライバシー(個人情報保護法も含む)に関する勉強会を実践している。関連パンフレットを職員に配布し、回覧する等、日常的に取り組んでいる。事業所独自の資料や内部規則を作成し、人権教育や啓発に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が各事業所の代表者で構成する研修委員会を設置し、年間の研修計画を立て、それぞれの事業所が必要な研修に参加している。また、外部研修に参加した職員が職員会議等で他の職員へ報告し、全職員が共有できるようにしている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と交流機会が少なく、取り組みは活発にされていない。	○	事業所間の積極的な交流に取り組んでほしい。
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学を実施している。入居後は家族と連絡を取り、相談しながら、本人の状態等に合わせた徐々に馴染めるよう工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から生活の知恵等を学ぶなどして、支えあう関係を築いている		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「お願い帳」という用紙を作成し、利用者自身もしくは職員が利用者の要望等を記入し、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画には、本人、家族の意見や要望等を記載し、それらを反映して介護計画を作成している。また、家族が同意した押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3ヶ月に1回である。しかし、状態の変化に応じて随時見直している。家族には変更内容を報告している。介護計画は詳細に、具体的に立てられている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時には毎日見舞いに行き、主治医や家族と相談しながら、早期退院に向けて支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人及び家族等の希望のかかりつけ医で受診できるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時に家族へ説明を行っている。また「看取り勉強会」を法人内部で行い、事業所としての方針も検討し、家族やかかりつけ医と話し合いながら全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関しては職員間で勉強会を開き、周知徹底に努めている。会議録や資料、パンフレット等が確認できた。日常生活の介護の中では、職員の言葉遣いや接し方は自然で目立たず、利用者の誇りを損ねないよう配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースや希望にそって支援している。毎日の生活には大きな制約はなく、朝食後の多目的ホールでの体操や散歩は楽しみの一つとなっている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は一緒に準備等をしている。菜園で収穫した農作物が食卓に上がる等の楽しみがあり、職員は利用者と一緒に楽しみながら食事をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や楽しみごと等を活かして、菜園作り、歌や踊りの場面作りを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年1回の宿泊旅行が利用者や家族の恒例行事になっている。毎月外出の行事を組み、季節に合わせた行事を企画し、利用者の楽しみを支援している。また、近くのスーパーへ食材の買い物に行くなど、日常的に外出の機会がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は出来るだけ施錠しないようにしているが、外出傾向がある場合は、家族に了解を得て、やむ得ず施錠することがある。	○	利用者の安全を図りながら、日常的に鍵をかけないケアや工夫をしてほしい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルがある。避難訓練は年2回、事業所独自で実施している。	○	事業所だけではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を実施してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が毎月献立を立て、主治医と相談しながら食事内容を検討している。食事摂取量は一覧表にまとめている。水分チェックは必要な人のみ記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い廊下とゆったりした居間、食堂はくつろげる空間で、不快な音もなく程よい明るさである。畳の間は掘りごたつ式のテーブルがある。また、いたるところに生花が飾られ、家庭的雰囲気配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッド、洗面台、クローゼットとエアコンを設置している。各居室は利用者の馴染みのものが持ち込まれ、家庭的である。		

※ は、重点項目。